

パラグアイ経済トピックス（2023 年 6 月）

1 カナダによるパラグアイ産牛肉の輸入解禁に向けた動き

6 月 22 日、国立家畜品質・衛生機構は、カナダ食品検査機構（CFIA）が発表した、パラグアイ産牛肉の検査システムに関する最終調査報告書につき、「当該調査の結果は、パラグアイにおける牛の検査システムがカナダの食品安全に関する法令の基準と少なくとも同じレベルの安全を提供することを示した」とする声明を発表した。

2 パラグアイ・ブラジル博覧会、ビジネス規模 1 億 8000 万ドル超を目指す

6 月 19 日、商工省は、9 月にパラグアイ・ブラジル商工会議所が主催する第 14 回パラグアイ・ブラジル博覧会の開催を発表。同博覧会は、「持続可能な環境におけるビジネスチャンスの創出」をスローガンに、9 月 21 日と 22 日にコンメボル・コンベンションセンターで開催される。

同博覧会には、農業関連ビジネス、食品、飲料、健康、美容、エステティック、福祉、家庭、装飾、家具、繊維、ファッション、及び関連産業に携わる企業が参加する。また、建設・不動産開発、自動車、バイク組立、電気・照明・電子工学、産業用機械・設備・工具、化学・製薬、物流・輸送サービス、ソフトウェア技術、ネットワークシステム、情報通信技術関連企業の参加も見込まれる。

同博覧会のビジネス規模は 1 億 8000 万米ドルに達する見込みで、300 社、2500 人の来場者が見込まれている。

3 パラグアイは油糧種子の出荷での地位を確立

パラグアイ税関によると、ピーナッツは伝統的な商品以外で最も輸出されている油糧種子の品種の 1 つとして際立っている。2022 年の全輸出量は 2,644 トンであり、主な輸出先は米国とブラジルとなっている。主な輸出企業は、Hypergrain SA（36%）及び Indugrapa SA（17%）である。2023 年の現時点では、合計 2,124 トンの輸出となっている。

チアの輸出も著しく成長している。2018 年には約 15,283 トンを輸出していたところ、2022 年には約 38,070 トンに成長し、2023 年 4 月時点では約 10,834 トンを輸出。現在 55 カ国に輸出している。高橋 Hypergrain SA 社長は、生産の安定とイノベーションによる質の向上が、これらのパラグアイ産品の信頼性を高めているとしている。

4 パラグアイ産自動車部品、近隣国の大手自動車メーカーに供給

6 月 14 日、南米フォルクスワーゲンの社長であるアレクサンドル・ザイツ氏はパラグアイを初めて訪問し、ペニャ次期大統領と会談した他、同分野の事業家たちと会談した。同社長は、ブラジルにおける大衆自動車プログラムに基づき、今後数年間でブラジルでの自動車生産台数は約 25% 増加するため、パラグアイでのより多くの自動車部品を生産する必要があると述べた。

当地のフォルクスワーゲンのディーラーである Diesa 社のカリソサ社長は、当該増産に向け、Kromberg & Shubert 社は 500 名の雇用増を行うべく、更なる投資を行う必要があると述べた。